

誰もが暮らしやすい街をつくりたい

サポートセンター悠愛（障がい福祉課）

地域課題への取り組み

サポートセンター悠愛
統括施設長 棕野正信

熊本県阿蘇郡小国町

【地域の状況】（2024年1月1日現在）

人口：6,463人

世帯数：3,021世帯

熊本県北東部にあり、阿蘇郡に属する町。町域の8割が山林で、林業が地域産業を支えてきた。天然温泉施設も多数存在し、ジャージー牛の飼育もさかんなど、観光地としても人気が高い。

2024年に発行される新千円札の肖像画に採用された**北里柴三郎博士**を輩出した町として、注目が集まっている。



小国町の現状

- ① 人口減少；年間約200名減少 2050年には（2020年比）45.7%が減少
高齢化率；45.3% 一人暮らし高齢者559人 高齢者世帯425世帯
 - ② 少子化；2009年小学校が6校から1校に統廃合された。
 - ③ 農業の後継者不足が深刻。広がる耕作放棄地。
 - ④ 人口減少により消費型の地場産業（豆腐業界など）が衰退。
 - ⑤ 地域コミュニティの衰退と、高齢福祉の社会化による介護保険料及び公的財政負担の増加。
- ※ 障害福祉サービスは、国1/2・県1/4・（出身）市町村1/4 での給付費で賄われており、福祉施設が立地する市町村の財政負担は軽微

地方に広がる課題

取り組みを始めた動機、きっかけ

▶ ① ノーマライゼーション

- ▶ 高齢者や障がい者などを排除するのではなく、健常者と同等に当たり前に生活できるような社会こそが、正常（ノーマル）な社会であるという考え方。

▶ ② 障がい者グループホーム開設

- ▶ 2000年4月、空き家を活用した「悠愛ホーム」が開設。施設入所者男性4名の地域移行が実現した。近隣住民や職場での交友関係が広がる。選択できる暮らし。豊かになる表情。
- ▶ 施設での集団生活が、障がい者の個性や自尊心を損なっているのではないかという疑念を抱く。

誰もが暮らしやすい街をつくりたい

- ① 施設の小規模化と地域分散（職住分離 グループホーム）
- ② 農福連携事業
- ③ 地域貢献事業
- ④ まとめ

① 施設の小規模化と地域分散

- 昭和42年4月 知的障がい児施設小国町立小国学園（定員50名）として創設
- 昭和63年4月 更生施設が併設され、知的障がい児施設第一小国学園（定員50名）と知的障がい者更生施設第二おぐに学園（定員30名）の複合施設となる
- 平成6年4月 成人重度棟（定員20名）開設（第二おぐに学園は定員50名）に伴い、
- 平成21年10月 障がい者自立支援法による新体系施設へと移行
（施設入所支援40名・短期入所4名・生活介護60名・生活訓練6名）
- 平成23年4月 法人化により、すべての事業が社会福祉法人小国町社会福祉協議会へと引き継がれる
サポートセンター悠愛発足
（サポートセンター第二悠愛 入所支援40名・生活介護40名・生活訓練6名・短期入所4名）
- 令和2年10月 日中サービス支援型グループホーム「星野」開設に伴い
第二悠愛短期入所事業所開設
星野（定員4名）
サポートセンター第二悠愛入所支援定員減（40 → 30名）
短期入所事業廃止

サポートセンター第二悠愛の特徴

【職住分離】

施設入所支援（定員30名）

悠希寮・・・全11室（個室）

そよかぜ寮・・・全12室（個室4 二人部屋8）

生活介護（定員64名） 生活訓練（定員6名）

施設内授産作業所・・・生活介護；定員8名 生活訓練；定員6名 平均支援区分4.5

柿の木授産作業所・・・定員10名（分場；草木染作業所） 平均支援区分5.1

第二悠愛活動支援センター・・・定員46名 平均支援区分5.8

※ 障がい者支援施設で、敷地外で日中活動をしている施設は、全国で3.9%。

障がい者支援施設

サポートセンター第二悠愛

園内授産作業所



廃業した小規模多機能型高齢者施設を活用

柿の木授産作業所



撤退した地熱発電事業所の職員寮を活用

草木染め作業所



廃校になった小学校を活用

第二悠愛活動支援センター

旧万成小学校



併設している体育館

第二悠愛ミニバレーボール大会



体育館での活動



生活介護事業所 悠工房

外観



らくらく窯 (陶芸作業所)



生活介護事業所 悠工房

悠遊工房



木工作業所



第二悠愛グループホーム事業所 (介護サービス包括型) の発展

平成12年4月 共同生活住居「悠愛ホーム」(定員4名)開設

平成13年4月 施設内自活訓練棟開設

平成21年10月 障がい者自立支援法による新体系施設へと移行
グループホーム・ケアホーム事業所44名

平成23年4月 社会福祉法人小国町社会福祉協議会へと引き継がれる
第二悠愛グループホーム・ケアホーム事業所55名

令和4年10月 第二悠愛グループホーム事業所の現状 合計93名(現員90名)

悠愛ホーム(定員5名) きよらの家(定員4名) ひまわり(定員4名) 秋桜(定員2名)

スマイルマウンテン(定員4名) たんぽぽ(定員5名) あすなろ(定員5名)

晴るかす(定員4名) 陽だまり(定員7名) すみれ(定員2名) 蓬萊(定員2名)

銚杉(定員2名) わいた荘(定員4名) せせらぎ(定員5名) 風音(定員5名)

悠華(定員5名) 悠音(定員5名) 山風音(定員7名) 陽音(定員7名)

フットパス(定員4名) ステップワン(定員5名)

第二悠愛グループホーム事業所 (介護サービス包括型) の特徴

【空き家等を活用】

第二悠愛グループホーム事業所は、小国町・南小国町両町に21か所の介護サービス包括型グループホームを運営しています。また、近隣の地域住民（65歳以上の高齢者が多い）が、業務委託という形態で世話人や夜間支援員として就業しています。殆どのホームは、人口減少で**空き家になった家屋**や社員寮、教員住宅を活用しています。

このように障がい者の多彩な暮らしを支えているのは、**地域住民の理解と協力がある**からです。

【自己負担が低額】

全国調査によると自己負担額40,000円～60,000円／月が約53.0%を占めています。その他、60,000円／月以上が30.7%。**第二悠愛グループホーム事業所内の14か所は、月額30,000円未満**（全国調査では、全体の2.4%）。残りの7か所は、月額30,000円～40,000円未満（全国調査では、全体の10.8%）。

第二悠愛グループホーム事業所

わいた荘

フットパス



第二悠愛グループホーム事業所

ひまわり

スマイルマウンテン



第二悠愛グループホーム事業所

せせらぎ

すみれ・蓬菜



第二悠愛日中グループホーム事業所 (日中サービス支援型) への展開

令和2年10月

第二悠愛日中グループホーム事業所開設

日中サービス支援型グループホーム「星野」(定員10名)

第二悠愛短期入所事業所「星野」(定員4名)

令和3年10月

日中サービス支援型グループホーム「ブルースター」(定員8名)

第二悠愛短期入所事業所「ブルースター」(定員1名)

令和5年5月

日中サービス支援型グループホーム「明星」(定員10名)

第二悠愛短期入所事業所「明星」(定員1名)

廃業した有料老人ホームを活用した 日中サービス支援型グループホーム

【ブルースター】

入居定員8名 短期定員1名

改築（旧有料老人ホーム「定員18名」の
改修費；15,000千円） 家賃；月額200
千円

区分4；1名 区分5；3名 区分6；4名
平均区分；5.4 重度障がい者支援加
算；5名

最高齢；76歳 最年少；21歳 平均年齢
43.5歳



第二悠愛日中グループホーム事業所 (日中サービス支援型) ブルースター



第二悠愛日中グループホーム事業所 (日中サービス支援型) ブルースター



② 農福連携事業

耕作放棄地



耕作放棄地



大豆工房 小国のゆめ

開拓



耕作



大豆工房 小国のゆめ

農福連携と6次産業化プロジェクト

5月上旬 苗代作り

苗代 1,200枚



大豆工房 小国のゆめ

農福連携と6次産業化プロジェクト

すずかれん 7月下旬



レストランの畑 7月下旬



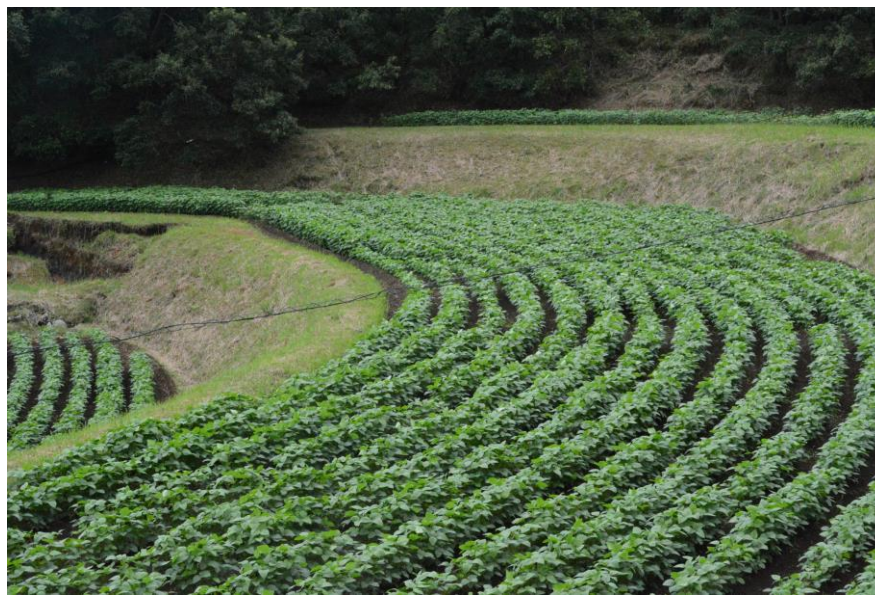
大豆工房 小国のゆめ

農福連携と6次産業化プロジェクト

9月下旬



おぐに黒大豆 9月上旬



大豆工房 小国のゆめ

農福連携と6次産業化プロジェクト

米の収穫 10月中旬



米



大豆工房 小国のゆめ

農福連携と6次産業化プロジェクト

「すずかれん」の収穫



大豆の収穫



大豆工房 小国のゆめ

就労継続支援 B 型事業所

鶏卵事業

九州ロード（地鶏）



大豆工房 小国のゆめ

豆腐製造



作業風景



大豆工房 小国のゆめ

商品



シフォンケーキ



農福連携レストラン すずかれん

入り口



農福連携レストラン すずかれん

働く利用者



夜の宴会



農福連携レストラン 天空の豆畑

入口



店内



農福連携レストラン 天空の豆畑

スタッフ

店内



③ 地域貢献事業

高齢者等向け配食サービス



スタッフ



就労支援センター陽なたぼっこ 就労継続支援 A 型事業

高齢者等向け配食サービス



配送前



就労支援センター陽なたぼっこ 移動販売事業

陽なたぼっこ号



生鮮品・総菜・日用品など約200品目



移動販売車「陽なたぼっこ号」

小規模集落へ



町民とのふれあい



薬味野菜の里 小国

指定管理業務開始令和5年10月～

循環型農業の振興



小規模家族農業の振興



薬味野菜の里 小国

生産者の所得向上



消費者との交流施設



④ まとめ

- ① 平成23年4月、町立小国学園民営化により小国町社会福祉協議会が運営するサポートセンター悠愛が誕生
- ② 児童施設（入所・通所）が併設した大型複合施設に発展
- ③ 地域内にグループホーム24か所を開設。120名が暮らしている。
- ④ 活動拠点を地域内に10か所以上開設。
- ⑤ 平成26年4月、就労支援センター「陽なたぼっこ」開設。就労移行支援・就労継続支援A型。高齢者等向け配食サービス開始
- ⑥ 平成28年4月、大豆工房「小国のゆめ」農福連携事業開始。
平成30年3月29日、単独のB型事業所として開設
- ⑦ 平成30年6月 農福連携レストラン「すずかれん」オープン
- ⑧ 令和3年4月 農福連携レストラン「天空の豆畑」オープン
- ⑨ 令和4年1月 平飼い農園おぐにん卵 開設
- ⑩ 令和4年10月 移動販売「陽なたぼっこ号」 スタート
- ⑪ 令和5年10月 「薬味野菜の里 小国」 指定管理業務開始

地域で共生する暮らし

取組の効果

- ▶ ・朝は玄関で「ってきます」と出て行き、帰宅すると「おかえり」と迎えらる。活動拠点で「おはよう」と再会し、夕方「またね」と帰路に就く。職住分離によって、**最重度の障がいがあっても精神的安定と生きがいにつながる**ことが明らかになっています。
- ▶ 障がい者の地域移行のため、施設の小規模化と地域分散に取り組んできました。その結果、地域での多彩な暮らしと、**障がい特性（個性）に適した多様な活動を創設**することになりました。
- ▶ 障がい福祉サービスの拡充は、**地域に多くの雇用を生みました**。民営化後の平成23年度の職員数65名から、令和5年度現在155名の職員が働いています。また、高齢者も業務委託従事者として障がい者の地域生活をサポートしています。平成23年度の業務委託従事者34名から、令和5年度現在87名がグループホーム業務に従事しています。
- ▶
- ▶ **障がい者の安心安全は、施設の中ではなく地域にあります。**

今後の計画

- ▶ 中長期計画により、**障がい者支援施設（入所支援等）の解体**を計画しています。これにより、強度行動障がい者などの最重度障がい者の地域移行を実現します。
- ▶ かつては小国町の基幹産業であった農林業は、衰退の一途をたどり、小国町だけで耕作放棄地の拡大を抑制することはできません。一部の移住だけでは、年間約200人の人口減少を抑制することもできません。農林業に触れたいと望む**都市住民との関係人口を増やす**ことが大切になるはずです。
- ▶ SDGsの観点からもその重要性が明らかになっている小規模家族農業を継承できるように、農業に関心がある都市住民との交流事業を計画しています。これにより、**耕作放棄地を活用した都市住民による家庭菜園**などにつなげていきたいと考えています。
- ▶ 特に、**未来を紡いでいく子どもたちが、種をまき育て収穫する喜びと旬の野菜の美味しさを知り、失われようとしている小国の文化を継承する力に育つ**ように、農業者とふれあい、学ぶ機会を作っていく計画です。
- ▶ 人材不足を解消するため、外国人技能実習生の雇用を準備しています。

第30回 ふくし夏まつり

ふれ愛 たすけ愛 ささえ愛

ボランティア団体など35店舗以上



ボランティアスタッフ300名以上



第30回 ふくし夏まつり

ふれ愛 たすけ愛 ささえ愛

ステージ



各団体の発表の場



第30回 ふくし夏まつり

ふれ愛 たすけ愛 ささえ愛

団体の運営資金



小国郷の福祉の祭典



小国町で暮らす

サポートセンター悠愛では、障がい者支援施設入所者数がグループホーム入居者数を上回ったのは、今から14年前、小国学園時代の平成21年度です。これ以降も、グループホームの入居者数が増加の一途をたどり、同時に就労系をはじめ活動拠点の地域内開設が行われました。この結果、現在サポートセンター悠愛関連の建物等は、小国郷内40か所以上にも及んでいます。

集団から個へ、施設から地域へ、そして地域共生社会の実現へと、社会福祉法人の地域貢献が義務付けられていることも念頭に置いた、施設運営が求められています。

(施設) 入所じゃない、小国町で暮らす。

障がい者が住民としての尊厳を取り戻すための挑戦は、これからも続いていきます。

ご清聴ありがとうございました

